The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	明治和歌史に関する資料展観目録 : 主題「明治の新派和歌が生まれるまで」
Author(s)	
Citation	語文. 1952, 5, p. 45-48
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/68400
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

明治和歌史に関する資料展観目録

―主題「明治の新派和歌が生れるまで」―

（注意。刊行年にはすべて明治の二字を省略した。又、編者の時は編の字を特記し、著書の場合は著者名下に著の字を省略した。）

明治十年代

一、新時代意識の発生

開化新題歌集（大久保忠保編）11・11刊

明治開化和歌集（佐佐木弘綱編）13・7刊

明治新題和歌梯（佐佐木弘綱）14・9刊

嚶鳴雑誌　12・12創刊

（第五号及第六号に田口卯吉の「唱歌の説」出づ）

二、新体詩論（広義の和歌改良論）起る。

新体詩鈔（井上哲次郎等）15・8初版

十二の石塚（湯浅半月）18・10刊

（植村正久の序文に注目の事。）

三、狭義の和歌改良論起る。

歌楽論（末松謙澄）17・9・10より約半歳東京日日新聞に連載。

参考。歌謡教育論（西村正三郎）21・7刊（内容の一部に明治十年後期の新歌論の情勢を窺知せしむべきものがある。）

明治二十年代

一、和歌改良運動の積極化

東洋学会雑誌　19・12創刊

（第四号に萩野由之の「小言」出づ。第二編第三号に服部元彦の「和歌改良論を読む」、第二編第五号に三上参次の「歌の論」、第二編第六号に高津鍬三郎の「誌歌ヲ論ズ」等出づ。）

（二十二年十二月号に萩野由之の「和歌及新体詩を論ず」出づ。経世評論第十号「和歌を論ず」と同文）

国民の友　20・1創刊

（第二十九号に徳富蘇峯の「新日本の詩人」出づ。第九十六号より百七号に亘り、山田美妙の「日本韻文論」出づ。その他、広義もしくは狭義の和歌改良に関する論、相次いで此の雑誌に載る。）

国学和歌改良論　20・7刊

（本書所収の萩野由之の和歌改良論は、東洋学会雑誌の「小言」に小補筆を施せるもの）

国学和歌改良不可論（武津八千穂）21・2大阪刊

経世評論第十号　22・4刊

（萩野由之の「和歌を論ず」出づ。和歌改良に新体詩の長所を取り入るべきを説く

和歌沿革略史（池袋清風）21・8・23、24、25、26、28郵便報知新聞所載。

（清風には、また21・6・29、21・7、6、8東京日日新聞連載「和歌概論」の述作がある。）

詠歌論（佐佐木信綱）

21・2女学雑誌第九十八号所載（「華甲文集」所収）

（本論は和歌の価値を純文学的立場より再認識せるもの）

★尚、この種の論には21・1・16坪内逍遙の「美術論」と題する同攻会学術講演がある。

文明之母　21・10創刊

（第一号に山田美妙の歌載る。）

いらつめ　20・7創刊

（山田美妙の歌論と歌と載る。）

しらがみ草紙　22・10創作

（井上通泰等の歌話載る。第四十九号より与謝野鉄幹、鮎貝槐園の歌評並びに歌載る。）

早稲田文学　24・10創刊

（井上通泰等の歌論その他重要資料登載）

言葉の花　25・7創刊

（十二月二十日号に柿の舎主人の短歌擁護論出づ。）

婦女雑誌　24・2創刊

（与謝野鉄幹の若き日の歌文歌話出づ）

新撰歌典（落合直文編）24・11初版

（本書萩野由之担当執筆の個所に

は「和歌及新体詩を論ず」と同趣旨を説く）　25・3創刊

歌　学　26・4廃刊

（落合直文系和歌改良運動家の雑誌。落合直文、萩野由之、小中村義象等の論を多く載す）

文　海　26・4創刊

（第一巻第四号に萩野由之の文話出づ。また、金子雄太郎（薫園）、岡麓等の歌載る。）

★明治二十五年、六年の交より有志青年の間に和歌改良熱起る。

三　籟　26・3創刊

（創刊号に山田美妙の「雑の歌」載る。与謝野鉄幹の「東西南北」調の先蹤である。）

★浅香社詠草、二十六年に入り、自新聞、日本、二六新報等に出づ。

二、和歌改良家の歌

いさり火（大和田建樹）　21・12刊

山　した　水（　同　）　28・5刊

池袋清風大人詠草（池袋清風）歌稿写本

（この中に二十一年四月十九日作グレー墓畔吟の短歌訳、二十一年十月及十一月作新体和歌試作等あり。）

浅　瀬　の　波（池袋清風編）　21・5刊

井上通泰詠草第一集（井上通泰）　33・3刊

（通泰の歌は主として「しがらみ草紙」に載る。）

萩の家遺稿（落合直文）　37・5初版

（与謝野寛、服部躬治等の編纂）

萩の家歌集（落合直文）　39・6初版

（金子薫園の編纂。萩の家遺稿の収載歌と相違あり。）

参考。落合直文先生書簡集

創作苦心談（34・3新声社刊）

（この二書は、落合直文の歌論資料）

三、短歌改革運動起る

亡国の音（与謝野鉄幹）　27・5・10—18まで二六新報所載。

（はじめて和歌革新の語を用ゐ、革新の対象を短歌に限定す）

東西南北（与謝野鉄幹）　29・7初版

（鉄幹の処女詩歌集）

天地玄黄（与謝野鉄幹）　30・1初版

（附録に、伊藤落葉、佐佐木獨尊、金子薫園の歌を収む）

国歌新論（末松謙澄）30・5刊

（歌楽論の説を敷衍せるもの。正岡子規の歌論の先蹤である。）

★日清戦後、雑誌発刊相次ぎ、各誌上に和歌革新問題を取扱ふ。短歌改革の声漸く高し。

太陽　28・1創刊

帝国文学　28・1創刊

めさまし草　29・5創刊

（第三号より佐佐木信綱の短歌連載。信綱の歌に新傾向あらはる。）

百合　29・5創刊

白（第二号佐佐木信綱の歌出づ）

大倭心　29・9創刊

（与謝野鉄幹の歌並びに論説出づ）

明治三十年代

一、新派和歌建設時代

★歌よみに与ふる書（正岡子規）31・2・12より3・10にわたり十回、日本新聞に出づ。

★続いて、百中十首（正岡子規）31・2・27より3・8迄十回、日本新聞に出づ。

★与謝野鉄幹の歌論及び短歌、主として読売新聞に出づ。（明治三十一、二年頃）

★当時の読売新聞は新派和歌の機関紙の如き観あり、日本新聞また子規一派の機関紙であった。

反省雑誌　20・8創刊

（列陳の号には鉄幹の連作「高麗旧都歌」出づ）

桜華国　30・4創刊

（鉄幹の歌出づ）

心の華　31・2創刊

（新派和歌の綜合誌。列陳のうち34・1月号には「国風家懇親会」の写真及び佐佐木信綱の「釣船」と題する文あり、当時の歌壇情勢を

知る便がある。）

いさ さ 川　29・10創刊
（「心の華」の前身。「いささ川」「心の華」の沿革は「心の花」三百号記念号の石榑千亦の文にくはし。）

国　文　学（明治書院発売）　32・1創刊
（落合直文系歌人の歌論と作品とを登載。）

膨脹の日本　32・12創刊
（第二巻第五号に鉄幹の文、同巻第六号に鉄幹の歌出づ。当時の鉄幹の傾向を知るに便である。）

姫　百　合　32・11創刊
（月の桂のや一派の和歌を載す。表紙題字は落合直文の筆）

古　今　文　学　33・2創刊
（武島羽衣の「和歌壇の新派を戒む」を載す。）

今　文
（「古今文学」の改題。落合直文、服部躬治、尾上柴舟等の歌出づ。）

活　文　壇　32・11創刊
（正岡子規の「新体詩についての説」、屋上柴舟、小松原春子（窪田空穂の筆名）の歌出づ。）

★新派和歌樹立のために古歌研究行はる。

続歌学全書　31―32刊行
★青少年の文芸熱昂揚し、文芸投書雑誌簇出す。

文　庫　28・8創刊
（第十四巻第二号〔三十三年〕より短歌欄は鉄幹選となりて面白を一新す）

新　声　29・7創刊
（歌欄は金子薫園が選者。列陳の誌上には後年与謝野晶子とその歌才を並称せられた山川登美子の歌文収載。）

★地方にもまた明治三十年頃より文芸雑誌簇出す。

文　壇（名古屋）　29・9創刊

新　文　学（周防徳山）　30・6創刊
（鉄幹の写真及び作品載る。）

よしあし草（大阪）　30・7創刊
（与謝野晶子等詩歌載る。）

関西文学（大阪）　33・8創刊
（よしあし草）の後身）

ふた葉（大阪）　32・1創刊

小天地（大阪）　33・10創刊
（「ふた葉」の後身）

鳳翔（茨城）　31創刊
（「青年詞壇」の改題。鉄幹の作品載る。）

銀杏（熊本）　34・6創刊
★これらの文芸雑誌は新派和歌の発達普及に貢献するところがあった。

参考。小木曾旭晃著地方文芸史

★青年層に新派和歌研究団躰簇出す。

いかづち会発会当時の写真

新　文　芸　31・6・30発会
（創刊号に八杉貞利の「二十世紀の和歌壇」出づ。その他、この雑誌には若葉会同人の作品載る。若葉会は三十二年一月発会）

★この種の研究団体簇出の風潮は地方にも波及して新派の歌会各地に起る。

★根岸短歌会成る。　32・2

★坂井久良岐の七日会成る。　32・4・7

★三十三年四月、鉄幹新詩社を起し、四月雑誌「明星」を発刊す

明　星　33・4――41・11

文壇照魔鏡　34・1匿名出版。

二、新派和歌確立

★三十三年八月鉄幹と根岸との論争。

大　帝　国　32・6創刊
（坂井久良岐、左千夫等の論と作と載る）

★新派歌集続出。

朝嵐夕雨（月の桂のや、田口春塘）　33・11刊
（新派歌集嚆矢）

かたわれ月（金子薫園）　34・1初版

同　34・4三版

竹柏園集（佐佐木信綱編）　34・2初版

鉄　幹　子（与謝野鉄幹）34・3初版
紫　（与謝野鉄幹）34・4初版
あけぼの集（丸岡月の桂のや）34・4刊
迦　具　土（服部躬治）34・7刊
みだれ髪（鳳晶子）34・8初版
くさふゑ（紫苑会編）34・9刊
叙　景　詩（金子薫園、尾上柴舟編）35・1初版
★新派和歌作法書出づ。
新派和歌評論（黒瞳子）34・10刊
新派和歌大要（与謝野鉄幹）35・6刊
新派和歌辞典（日本新詩会編）35・7刊

三、明星派に対する新体詩の影響
若　葉　集（島崎藤村）30・8初版
なつくさ（同）31・12初版
暮　笛　集（薄田泣菫）31・11初版

四、正岡子規に対する日本派歌人の影響
日　南　集（福本日南）
磐之尾歌集（丸山作楽）（「丸山作楽伝」附録）
竹の里人選歌　37・5刊
竹の里歌　37・11刊
日本新聞切抜一束
子規言行録
この花（子規の新体詩を載す。）30・3刊

六、坂　井　弁（久良岐）著書
文壇笑魔経　35・5刊
へなつち集　34・12刊

附一、
新詩社系雑誌（明治期）
スバル（42・1創刊）
トキハギ（42・5創刊）
根岸短歌会系雑誌（明治期）
馬酔木（36・6創刊、41・1終刊）
アカネ（41・2創刊）
人生と表現（45・5「アカネ」改題）
阿羅々木第一巻（41・10創刊）
アララギ第二巻（42・9創刊）
比牟呂（写真）（36・1創刊、42・3終刊）

附二、写　真
明治三十三年頃の佐佐木信綱
晩年の落合直文とその筆蹟
二十五才頃の与謝野鉄幹
歌楽論執筆頃の松謙澄
明治二十年代の池袋清風
晩年の池袋清風とその筆蹟
いかづち会同人
昭和三年十二月十六日撮影（茂吉、信綱、晶子、柴舟、菫園寛、久保猪之吉）
昭和七年十月十七日撮影（茅野雅子、菊池駒次）以上。

附記

昭和二十六年十二月一日、毎日新聞大阪本社講堂において当国文学会主催の公開講演会を開催したことは彙報に記した通りであるが、以上は当日の小島教授の講演「子規と鉄幹」とともに、子規歿後五十年を記念して陳列した明治和歌史に関する諸資料の中からその主なものを選び、ほゞ展観形式に従って掲出したものである。なほ資料はすべて小島教授架蔵のものである。（田中）